

# 『禅のこころ-曹洞宗-』

## 授戒

平成29年11月第2週放送

「戒かいを授さずける」という意味のこの儀式は、皆さんに身近なところではご葬儀の際に目にすることが多いでしょう。これは「戒かい名みょうを授さずかる」の略ではなく、仏様、つまりお釈迦さまの弟子となるための“戒かい”を授かり、仏弟子となる決意をしたあかし、お印しるしとして戒名が授けられるという、尊い儀式なのです。

ご葬儀での「授戒じゆかい」は、この儀式の要点ぎょうが行ぎじられます。

いわゆるお剃かみそり刀げもんの偈文そを唱えて髪を剃り、お坊さんの姿となられ、その頭にお清むさぼめの意味を込めて清らかな水そそを注ぎます。そして、貪むさぼり・いかり・おろかさ、といった生きる上で逃れられない煩惱と、そこから生まれたたくさんの小さな罪つみを自覚して懺悔さんげをし、戒尺かいしゃくという小さな拍子木ひょうしぎの音に合わせ、“戒かい”すなわち仏様の弟子として自発的に守るべき決まりごとをお唱えします。言葉を発することができない故人に代わり、導師である僧侶が繰り返しお唱えしますが、ご遺族ご参会の方々の前で行う儀式です。できれば一緒に両の手で合掌してお勤めしたいものです。これがもし生前の「授戒」であれば、戒を授かる方は菩提寺のご住職と机をはさんで向かい合い、両手を合わせ合掌にて一緒にお唱えをいたします。

授戒の儀式の最後には、仏弟子になるにあたって、お釈迦さまから始まり、道元どうげん禅師けいざん、瑩山えいざん禅師を経て私たちに至る、歴代のお祖師様方のお名前を赤い線で結んだ「血脈けちみやく」が授けられます。ご葬儀であれば、多くはご出棺のお別れの時に故人様のお手元にお持たせし、生前の授戒であれば、合掌した親指と人差し指の間に挿はさんでいただきます。

このように「授戒じゆかい」は大変重みのある儀式です。近頃は、終活と称してご自身が亡くなった後のこ遺された方々にさまざまな負担をかけたくないという一いっしん心で、生前に戒名を求める方もいらっしゃると思います。お気持ちは分かりますが、「授戒」は大きな決意とお誓いの上で行うことであり、戒名を授かることはとても尊い仏縁ぶつえんです。その仏縁を大切に、ぜひ菩提寺に気軽に足を運ばれ、ご住職と親しく言葉を交わされ、お寺の諸行事に積極的に参加され、お釈迦さまから伝えられた迷いを離れて安らかに生きる教えの道を、お寺や近しい方々と共に歩んで載きたいものです。

— 終 —